

(銀のエンジェル賞 小学生中高学年の部)

すもものばんづけ

小四・齋藤 駿成

ある森のおくのおくに、虫ずもう村という村があった。虫ずもう村は、夏になると虫たちがすももの大会を行うことで有名だ。

夏のある日、コクワガタが数匹、すももの練習をしていた。コクワガタは弱いほう。横綱のカブトムシにどうやったら勝てるか相談を始めたが、一匹まだ来ていない。それでも相談は始まった。

「カブトムシは、かんとんには倒せない。」

「足をつかめば？」

「無理無理。けられるよ。」

なかなかいい案が出ない。その時、おぐれていた一匹が急いで来た。何か持っている。

「これを買っていて、おそくなったんだ。」

持っているのは、菜っ葉のような野菜。

「これは、『スモウ』という野菜。来る途中、木のかげに落ちていた紙を拾うと、こんなことが書いてあったから、買ってきたんだ。」

紙には、こんな内容が書かれていた。

「スモウをばん漬け、すばやく揚げる。それを食べると、強くなる。」

おくれたコクワガタが説明する。

「スモウのばん漬けは、すももの番付。揚げるは、上げるということ。すももの番付を上げるのは、つまり、すももうで強くなることなんだ！」

「すごい！さっそく作ろう！」

ばん漬けは、一晩つけておく漬け物。コクワガタたちはスモウをばん漬けにして、再び練習にはげんだ。

次の日の朝。

「そろそろばん漬けができているころだ。」

コクワガタたちはスモウのばん漬けを揚げ、わくわくしながら食べてみた。すると、なんとということか、みるみる全身に力がみなぎってきたのだ。

「な、何だ!? どんどん力がわいてくるぞ！」

すもうの練習をしてみると、コクワガタたちは巨大な岩をも投げ飛ばすほどの力になっていた。

「これで、優勝は決定だ！」

それから一週間後。とうとう、今日はすもう大会の日。コクワガタたちは、いつもなら一瞬で負けてしまうような強い虫からも、ようやく勝利をうばいとり、勝ちぬいていった。コクワガタ同士で戦うと、すばらしい打ち合いになった。

そして、いよいよ決勝戦。一番大きなコクワガタと、予想通り勝ち上がってきたカブトムシの戦いだ。観客席では歓声が鳴りひびいている。カブトムシが言った。

「コクワガタが決勝に出てくるなんて、めずらしいな。だが、このおれには勝てまい。」

しかし、戦いが始まると、カブトムシが思ってもみなかったことが起きた。コクワガタがカブトムシを空高くまで投げ飛ばしたのだ。コクワガタ以外、誰も何が起こったのか分からなかった。特にカブトムシは、自分がコクワガタに負けたなんて信じられなかった。行司のカナブンは、とまどいながらも軍配をコクワガタの方にあげた。

コクワガタは、ついに、すもう大会で初めて優勝したのだ。

その後、すもう大会に出場した虫の会合があった。コクワガタがスモウのばん漬けについて話そうとすると、物知りなクロオオアリがやって来て、コクワガタの持っている紙を見ると、他の虫に説明した。

「コクワガタさんは、スモウのばん漬けを揚げて食べたんだ。スモウのばん漬けを揚げることをすもうの番付を上げることと捉え、信じて練習すれば力がわき、何も起こらないと思うと変わらない。スモウという野菜は、本当に、不思議な野菜なんだ。」

「へえ〜」

「そうなのか！」

おどろきの声が飛び交う。その時、ドアがものすごい音を立てて乱暴に開けられた。入ってきたのは、オオスズメバチだった。叫ぶ。

「コクワガタ、ルールに反する裏技を使ったのか？それでもしないと勝てないだろう。」

「まあまあ、そんなに怒らないでも。」

クロオオアリがスモウを持って話し始めた。

「コクワガタさんが食べたスモウという野菜は、心の持ち様によって栄養が変わる。コクワガタさんは、強くなると思ったから強くなったんだ。ルール違反なんかしていない。」

「なんだと！」

オオスズメバチの顔は怒りでいっぱいだった。

「植物博士に聞いてやる！」

虫たちは、植物博士のオンブバッタがいる研究所へ向かった。研究所には、たくさんの植物が植えられていた。その中には、もちろんスモウもあった。オオスズメバチは、オンブバッタにスモウにつ

いて質問した。オンブバッタは迷わず答えた。

「心の持ち様で、栄養が変わる野菜です。」

その後も何匹かの植物博士の所へ行ったが、答えはみんな同じだった。それで、オオスズメバチは飛び去っていった。

コクワガタたちは、スモウのぼん漬けを揚げた物を他の虫に分けてあげた。みんな効果を信じて努力したから、力がわいてきた。その時、近くの草やぶがガサガサと音をたて、タヌキがおそってきた。しかし、力のついた虫たちを前にタヌキは逃げるしかなかった。

次の日、虫たちはスモウを育てはじめた。いつしかそれは大評判となり、たくさんの虫たちがスモウを求めてやってきた。虫たちの間で、虫ずもう村は、「力みなぎるスモウの村」とも呼ばれるようになった。他の村からも客が押し寄せ、それがまた評判を呼び、客は増えるばかり。コクワガタからはじまったスモウブームは、村を活気づかせたのだった。
